

工 芸

「好 日」

村岡 純子(いの町)



むらおか・じゅんこ 1948年高知市生まれ。褒状1回、初特選。

暖かい陽光のよう

な、草木染の手織り
紬。「織れる時間があれ
ば、いい日」という実
感を作品に込めた。

機に掛ける縦糸は、
まずコブナグサで黄色
に染色。黄色を残した
い部分をひもで縛った
後、それ以外をツワブ
キやクサギの実でグレ
ーや緑に染め、色合い

織れたら、いい日

世紀。制作
仲間の友人
ら周りに感

に変化をつけた。大鍋
に糸を漬けるなど染色
は体力が要り、機に糸
を掛けるまでが「仕事
の80%」と表現する。

とはいえ、そこから
織る作業に半年間。約
50センチ進むごとに横糸を
変えてグラデーション
を出しながら、約12センチ
の1反分を仕上げた。

もともと伝統工芸が
好きで、20代の時に友
人がくれた沖繩の久米
島紬に感動したのが制
作の原点。マフラーな
てやってきました。無

だから織り始め、途中
から「手織りをする以
上は憧れだった」着物
を作るようになった。輝
いている。

家事や仕事の合間に
こつこつ糸を重ねて半

(徳澄裕子)